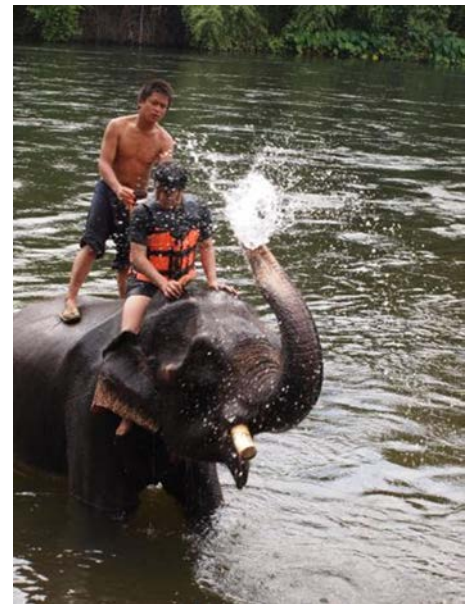


今日はタウィーチャイエレファントキャンプに行きました。このキャンプのマネージャーのダンロンさんから説明を受けました。このセンターについてここには 30 頭の象がいます。ここでは観光を目的に象に乗る体験をすることができます。センターの当初の目的は象を集めトレーニングさせることでした。子象を買い集め、トレーニングを重ね象のツアーができるまでにしました。ここでは生まれてからトレーニングを始め、2~3 年でショーに出られるまでになります。人を乗せられるようになるまでには 14 年もの歳月がかかります。ここでは象 1 頭に対して必ず 1 人 Mahout(マフトゥーン)と呼ばれる象使いがいます。象使いは毎朝象の体調チェックをおこないます。夜間象は山にいます。夜になると降りてきます。その際に象使いは象の胴の両側を見ます。両側が汚れていたら寝返りをうてているということで健康だと判断できます。片面しか汚れていない場合は体のどこかに異常があるということで病気の可能性があります。また、象使いは怪我がないか象の体を入念に調べます。象は怪我をしやすいからです。怪我がありそのままにしておくと、オスの場合特に狂暴になりやすいからです。象の毎日の食事はパイナップルの木と草です。象の寿命は人間と同じくらいでとても長生きする動物です。このセンターでは毎年繁殖し、1 年に 1-2 頭の象が生まれます。象の妊娠期間は 20 - 22 ヶ月と長く、生まれてくる子象の重さは 80 -100kg, 体高は 90 cm くらいあります。このセンターの象はアジア象です。アジア象のオスには牙が生えています。これは 1-2 歳で生え始め 40 歳くらいまで伸び続きます。ここでは安全のためにきばを切っている象も見られました。説明の後に実際に象に乗りました。象の背中の乗り心地は快適で、景色もとてもきれいでした。象に乗った学生やたちは日本ではできない貴重な体験をすることができてとても楽しそうでした。



象に乗っている様子

次はタイで初めて設立されたというサラクパラ野生動物自然保護区に行きました。まず、職員のフレンティーさんからこの自然保護区についての説明をしてもらいました。ここは設立された 40 年程前から、この地域に多く生息している野生の象を主に保護しています。西部地域は 3 種の異なる森林地帯となっていますが、そこで大きな問題なのは不法伐採が行われるということです。この他にも、不法な狩猟や、住宅建設用への石の盗難・販売、保護区の中に入り、自然を燃やし切り開いて農場を始めてしまう人や、牛を連れてきて放牧してしまう人もいるようで、様々な問題がありま



自然保護区についての説明

す。また、街中のレストランでウサギ、シカ、トカゲ等の野生動物の肉を販売していた人もいたようです。この様に不法に肉を販売する者は逮捕され、最高で4万バーツの罰金が科せられます。最近はこの野生動物の肉を不法に販売する者を逮捕し減らすことにも力を入れているそうです。年々保護区は小さくなってきているので、野生動物が人の住んでいる地域まで来てしまい、農業被害も出ています。これらの問題を解決するため、19か所の検査場を設け、GPS、カメラ、磁石、地図などを用いて地域の調査をしているようです。これにより森林伐採や狩猟は50%以上も減ったということでした。この様な有効な方法で地道に調査を続けることが犯罪を減らすのだと感じました。

説明の後は、4輪駆動トラックで保護区内を見学しました。そこには多くの植物が生い茂り、食べ物や隠れ場所が多いことから野生動物も暮らしやすそうでした。この地域の80%は竹の密林とのことですが、そのほとんどは野生の象によって折られていました。象は竹を折って中の組織を食べるのだそうです。また、保護区内にある観察支局の責任者であるマナさんからお話を伺い、歩いて保護区内を案内してもらったときも、所々に象の足跡や糞、体をこすった木等を発見することができました。これらより、野生の象が通った道だということが確認できました。保護区の入口付近には象がここから出てしまわないように電柵もありました。結局、象の姿を見ることはできませんでしたが、野生の象が確かにここにいたという証拠をいくつも見つけることができました。

今日はタイのシンボルでもある象に関する施設を見学しましたが、象の生態や自然保護区の現状、抱えている問題など、初めて知ることばかりでとても勉強になりました。昔からタイの人々と象は深い関係があり、お互いに支えあって生きているような印象を受けました。そして、これからも良好な関係を築いていってほしいと感じました。



象の足跡を発見しました。